怠け者なりの処世術：火事場で悪あがき

第 10 期 OB　石井隆太

今年度は，国際学会に 4 度も参加することができました。開催地は順に，ウィーン，ソウル，パリ，ニューオーリンズでした。国際学会では，ほぼ例外なく，英語が標準語として使用されます。私が国際学会に参加する最たる理由は，英語を使う機会を得てその力を高めたいからです。英語で研究発表や論文執筆ができるのは素直にカッコイイと思うからとか，就職に有利だからとか，海外の研究者とコミュニケーションを取るのは有益だからとか, とにかく色々な理由で, 英語の能力を伸ばしたいと思っているわけです。

でも，よくよく考えてみれば，英語力を鍛える方法は，他にも沢山あるはずです。一般的な方法は，英会話に通ったり，オンライン英会話を受講したりすることでしょう。洋楽・洋画を鑑賞したり，洋書に挑戦したりすることも有効ですし，最近では，SNS を活用すれば外国人と友達になることもできます。しかし，私は，それらの方法を一切使っていません。というか，使えないのです。なぜなら，私は，ぐうたらで怠け者だからです。英語をマスターするという大層な目標はあるものの，努力を怠っているせいで，私の現状は悲惨と言わざるを得ません。英語で論文を書かせてみれば，数時間パソコンに向かって，最終的に書けたのは数十単語なんてことはザラにあります。国際学会で発表させてみれば, 質疑応答はタジタジで, 相手の質問は 2 割しか聞き取れないし，こちらの言いたいことは 0.5 割しか言えません…。

国際学会に参加するメリットを挙げるとすれば，一般的には，業績になるとか，最先端の研究を見聞きできるとか，観光ができるとかでしょうか。しかし，私にとってのそれは，沢山の締切があることです。国際学会に参加するためには，英語で論文を書いて投稿し，審査に通過したら予稿集用の原稿を作成し，発表のための資料とスクリプトを準備して発表練習を重ねなければなりません。投稿締切，予稿集締切，発表締切が設けられるわけです。こうした状況に追い込まれれば，怠け者でも，頑張らざるを得ません。

そして，そうやって，何とかして国際学会に飛び込んでみると，怠け者のやる気が高まることもあります。国際学会では，私のように英語が母国語ではない人たちが沢山参加していて，一見すると，英語が得意そうな欧州の人たちでさえも，それぞれの母国語のクセを残したまま，それでも堂々と英語を話しています。そうした雄姿を見ると，ほんの少しは自信が出てきて，それがやる気につながります。

背水の陣，窮鼠猫を噛む，火事場の馬鹿力。窮地に追い込まれた人間が，底力を発揮することは昔からよく知られた話です。ただし，私のダメダメな英文執筆やタジタジな質疑応答のように，日頃の努力を伴わない人間がギリギリで出せる力はごく僅かでしょう。せいぜいジタバタと，もがきあがく程度です。それでも，そうこうしているうちに，本当に馬鹿力が出せるようになるのではないかと楽観視しながら，まずは火事場に飛び込んでいって，そこで悪あがきをする。それが，怠け者なりの生き抜く術です。